

## 「全国走破！BROMPTONの旅（び）」→ 美章園散策

天王寺駅からJR阪和線各駅停車の電車に乗って一駅、3分ほどで「美章園」駅に到着します。駅周辺は戦前長屋や路地等も残る下町風情が感じられる町となっています。

「美章園」という名前は何かいわれがあるようだと思ひ調べてみると、大阪の財界人である山岡美章氏が大正時代に設立した「美章土地開発株式会社」がこの駅付近の土地を住宅地として開発したことに由来するのだそうです。

私は、近年上方落語に興味を持つようになり、時々繁昌亭などで開かれる落語会に出かけますが、そこで面識のできた実力派中堅落語家さんが美章園にお住まいになっています。築100年近くになる戦前長屋に奥さんとお二人で住んでおられます。テレビ番組で紹介されたこともあるほどの年季の入った住宅で、2階への階段を上り、そこからガラリを開けると洗濯物干し場に出られるという、今では珍しい造りの昔ながらの長屋です。物干し場からは、阿倍野ハルカスも見えるそうです。



さて、9月頃に開かれた落語会で、その落語家さんが、落語の本編に入る前の「枕」で台風21号の話をされていましたが、興味深いお話でしたので少し紹介をします。

その話というのは、台風21号で近所のマンションや住宅には被害があったが、お住まいの戦前長屋は被害がなかったのだそうです。また、その落語家さんの弟弟子の落語家さんはマンションに住んでおられるそうですが、その弟弟子さんから台風の最中に電話がかかってきて、

「今、どこかから飛んできた金属板がマンションのガラス戸に当たって、ガラスが割れました。あ～、今また何か飛んできて、もう一枚のガラス戸に当たって割れました。片手でカーテンを押さえています。」という内容だったので、思わず「電話している時やないやろ。携帯電話離して両手で押さえんかいと言いました。」と緊迫した状況であったことを報告されていました。

台風21号は大阪に大きな被害をもたらしましたが、戦前長屋には何も被害がなく、マンションに被害が生じたというのも、変な話だなと思います。

考えてみると、その一因となっているのは雨戸の有無ではないかと思ひます。マンションは通常雨戸はありませんが、そのため飛来物が当たったことによりガラス戸が割れたという被害事例は多かったようです。「異常」気象が「日常」化している今の時代、マンションのガラス戸にも雨戸設置が必要なのかも知れません。備えていれば、防犯面でも役に立つことでしょう。

さて、落語家さんの自宅のある美章園から、少し足を延ばして、「大阪市立工芸高校」を訪れました。ここはその落語家さんの奥さんの出身校なのですが、デザイン・造形を総合的に学ぶデザイン系の学科と美術科で構成されているユニークな高校です。校舎は、ドイツのワイマール工芸高校を模したと言われるバウハウス建築のような特徴的な建物です。大阪市の指定有形文化財にもなっていますし、近代産業遺産にも登録されています。

このような風格のある建物や風情のある戦前長屋という空間が、ユニークな落語家さんご夫婦の「人となり」に多少の影響を与えたのかどうかは知る由もありませんが、現在のマンションの住環境はどのような人間を育てていくのか、個性豊かな人間が育つ住環境とはどのような空間か、そんなことを考えながら美章園の散策を終えました。

(理事 平田陽子)

※次回のタイトルは、「く」から始まることばです。